

会派「きょうどう」行政視察報告書

令和5年4月19日

境港市議会
議長 荒井秀行 様

会派「きょうどう」
米 村 一 三



下記のとおり行政視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察期間	令和5年3月29日(水)～30日(木)
2 視察先 及び内容	<p>令和5年3月29日(水) 14:00～16:30 視察先: リファレンス新有楽町ビル 視察内容: 地方議員のための地域経済分析システム RESAS活用「応用編」 講 師: 行政システム株式会社 行政システム総研 顧問 蓼科情報株式会社 管理部主任研究員 榎並 利博 氏</p> <p>令和5年3月30日(木) 10:00～13:00 視察先: アットビジネスセンター-池袋駅前別館 視察内容: 観光による関係人口の創出と地域ブランド確立に 向けて～少子高齢化時代の市町村の未来戦略を考 える 講 師: 篠原 靖 (跡見学園女子大学観光コミュニティ学 部 准教授)</p>
3 視察委員	柗 康弘、岡空研二、森岡俊夫
4 視察経費	合計(3名) 313,400円 (一人当たり 104,466円) ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5、視察報告	別紙のとおり

視察報告

・地方議員のための地域経済分析システム「RESAS」活用について

I RESAS 活用事例と議員の役割

① 八戸市の地域経済循環分析で新たな施策の立案

・域外から稼ぐ力があり、大型商業施設や観光による集客があるという長所
・労働生産性が全国平均より低く、生産年齢人口が流失し、高齢化が急速に進んでいるという短所を分析し、八戸ブランドの発信強化や観光振興につながる新しい施策を立案

② 豊岡市の施策検証型分析で海外へ活路を見出す

・豊岡市では、「カバン産業」が基盤産業であるという認識を持っており、特にカバン製造業の従業者数増加を促す施策を実施してきたが、これまでの施策の効果等を検証し、新たな施策の方向性を検討した。

・SWOT分析で、カバン製造業の強み、弱み、機会、脅威を独自分析し、OEM中心の生産性の付加価値化が必要と考え、海外への販路開拓に活路を見出す。

等の事例を参考に下記の問題点を自分の地域に当てはめて考察することが、議員の役割である。

- ・自分の地域（自治体）はこの先どうなるのか？
→将来に対する危機感を市民と共有
- ・地域（自治体）における課題とは何か？
→課題認識についての対話
市民、行政、企業・事業者、その他
- ・どのような解決策があるか？
→関係者を巻き込んだ議論

これらについて、データに基づいて行うことに意味がある。

II 地域経済循環とは

① 地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、②労働者や企業の所得として分配され、③消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。このいずれかの過程で、地域外にお金が流出した場合、地域経済が縮小する可能性があるため、地域経済の循環を把握し、どこに課題があるのかを分析する。

- 1, 地産地消による経済効果
- 2, 観光客誘致による経済効果 等地域における地域経済循環マップを使って課題を分析する。
 - A) 生産分析・・・域外に移輸出して稼いでいる産業、域外からの移輸入に依存している産業の特定が可能。
 - B) 分配分析：都道府県、市町村単位で地域経済について分配面から分析することで、他地域と比較した所得水準の優位性等把握することができる。

III 産業構造マップ

製造業の構造（事業所数・出荷額・労働生産性・主要農産物・雇用状況）を

分析することで、求職・求人数等の職業とのミスマッチを把握する。

IV観光マップ

目的地・宿泊者・宿泊施設・外国人訪問分析・外国人滞在分析・外国人経路分析等で地域の観光傾向を把握する。

V消費マップの構造

消費の傾向・外国人消費の比較（クレジットカード・免税取引）・キャッシュレス加盟店舗数・キャッシュレス決済データ等の分析で動向把握する。

VIまちづくりマップ

地域内の産業割合、推移・地域内の事業所一覧で建物利用状況・不動産取引・社会教育施設の利用状況等を把握する。

その他・・・医療・福祉マップ、地方財政マップ、企業活動マップ、人口マップがあり、それぞれの自治体において、分析・検討して新しい施策を立案でき、境港市としても、本市の特性である北東アジアゲートウェイや水産業に対して、RESAS データの観光マップや産業構造マップ・地域経済循環マップを活用することで、新しい施策・立案が期待される。

観光による関係人口の創出と地域ブランド確立に向けて

～少子高齢化時代の市町村の未来戦略を考える～

1. アフターコロナの「地域経済と観光促進」の重要性について
日本は世界一、外国人旅行者が訪日に強い意向を示している。
訪日外国人旅行者消費額は、5兆円。・・・潜在力のある産業といえる。
波及効果は、約30兆円（2019年）
2. 地域経済を新たな発想でみなおし「関係人口」の創出の方法
観光による交流人口の拡大（地域観光の再構築が急務）→関係人口の拡大→
定住人口の拡大
3. インバウンド誘致と観光で地域経済の活性化に繋げて行く手法について
地域観光コンセプトづくりの5つのポイント
 - (1) 資源発掘の視点・・・地域資源を活かす上で、どのような点に着目するか？
 - (2) 顧客価値の視点・・・その資源を活かす上での「顧客価値」は何であるか？
 - (3) 資源の編集の視点・・・顧客価値創出のための資源の編集・加工の視点は何
か？
 - (4) 事業モデル化の視点・・・継続的な事業として発展させるため、どのような
工夫をするのか？
 - (5) 人材育成の視点・・・事業を発展させるための、人材とその育成について、
どのような工夫が考えられるか？

◆目指すべきキーワード

消費者（旅行者）の期待に応える→★「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」
消費者は、本物を求めている

4. 稼ぐ観光への仕組みづくり
 - (1) 数を追うだけでなく、儲かる観光の仕組みを作ることが大切！
 - (2) 行政中心でリードする観光は限界！
 - (3) 民力を主体にした稼ぐ観光の仕組みづくりが求められている！

◆観光地経営の視点に立って観光地域づくりを行う組織・機能を担う「DMO」が重
要となる。・・・境港市では、一般社団法人境港観光協会が該当。・・・ワンスト
ップで総合的にプロデュース。

考 察 全国の事例を聴き、境港市も農業、漁業に加え歴史、文化
の再編成をし、観光の構築の取り組みが必要で、DMO機能を
担う一般社団法人境港観光協会と境港市の担当部局での共通認識のもと
アフターコロナに向けた観光戦略の再構築が急務であると感じる。